

④ 明日を拓く 人材の森

熊本を産業や学術・文化など各方面にわたり活躍することのできる人材のあふれる新しい教育県とします。
特色ある学校づくり 次代を担う子供や若者が熊本に生まれ育つたことを誇りとし、個性と創造力を十分発揮することを目指して、学校・家庭・地域社会と連携を保ちながら、地域の核となる特色ある学校づくりを進めます。また、研究指定校の設置や外国人教師を郡市単位に一名配置するなど、学芸指導を一層充実します。さらに、学びの森構想を進めます。



学びの森（熊本西高等学校）

私立学校については、中高一貫教育に取り組むなど新たな学校の設置や時代のニーズに合った学科を持つ学校の育成などを進めます。

七十二年国体誘致 全ての県民が、それぞれの年齢や能力に応じて、進んでスポーツ活動に親しむ県民総スポーツ運動を展開します。また、多くの県民がスポーツに親しめる環境づくりのため、プール、陸上競技場などの施設を県下に整備していきます。このような条件整備を図りながら、昭和七十一年第五十一回国体の開催誘致を進めます。

くまもと・ルネッサンス・フォーラム 各地域で、自由に幅広く活躍する青年指導者群の育成を進め、これらの人々を中心に地域の発展を考えるくまもと・ルネッサンス・フォーラムの開催を促します。また、農林水産業の後継者育成をはじめ、中小企業の後継者の育成を図ります。

⑤ 地域で育む 明日の福祉社会

熊本を来るべき高齢化社会におけるモデルとなるような福祉社会とします。

地域福祉の実現 これからは、高齢者や障害者が地域社会のぬくもりを感じながら、家族と語り、生き生きとした明るい環境の中で、精神的に満たされた生活が楽しめるような福祉社会を実現しなければなりません。このため、市町村社会福祉協議会や民生委員活動の強化を図るとともに、ボランティア活動など民間活力の積極的な活用と供給体制のシステム化を図ります。また、そのための拠点として、総合福祉センターの建設を進めます。

さらに、障害者の社会参加計画を進めます。特に、障害者の社会復帰のためのモデル施設として、希望の里を建設します。

高齢者社会参加計画 健康で働く意欲のある高齢者が、長い間の経験と蓄積を活かして、あまねく社会活動に参加していただくことを目指して、全国で初めての「熊本高齢者社会参加計画」を展開します。



熊本県健康センター（熊本市東町）

健康センター 県民の健康を総合的に向上させるうえで、中心的、指導的役割を果たす拠点として、熊本県健康センターが今年度完成します。

また、赤ちゃんの健康検診を充実するとともに、小児の心身障害の発生子防から早期発見・療育体制の確立を目指し、小児正常発達総合システムの整備を進めるほか、救急医療やへき地医療の充実を図ります。

⑥ 潤いのある文化の源

熊本を伝統と個性を生かした潤いのある文化の源とします。
熊本化計画 熊本らしさを生かした新しい文化の創造に取り組み「熊本化計画」を進めます。

このため、全国、世界規模のイベントの招致・育成や県文化祭などを拡充し、わが国で初めての文化国体の熊本での開催を働きかけます。また、各文化施設のネットワーク化により効率的運営を図るとともに、マネジメント専門家の育成、招致を進めます。さらに、県立図書館を新しい時代の情報拠点として整備します。この熊本化計画の集大成として、新世紀モニュメント・プロジェクトに取り組みます。

風土記の丘 学術的、歴史的に価値の高い文化財が豊富な中で、その保護と活用を図ります。

そのモデル地域として菊池川流域を風土記の丘として整備するほか、「文化と歴史のふるさとづくり」などの国のモデル事業にも取り組みます。



「文化と歴史のふるさとづくり」に取り組む入吉・球磨地方のカルチャーパレス

緑の三倍增計画 緑は文化のバロメータです。豊かでさわやかな緑あふれる郷土を築くため、「くまもと緑の三倍增計画」による全県公園化を進めます。

これは、緑化の推進と美しい都市景観づくりを二つの目標としており、その実現のため、事業費の三割程度をこのための経費にあてる「くまもと緑の三割システム」を進めます。また、景観モデル地区の設定や電線電話線の地中化などを進めます。

さらに、昭和六十年には全国植樹祭、六十一年には全国都市緑化フェアなど、緑化と文化にちなんだ全国規模のイベントを開催します。

⑦ 活力と個性ある 郷土

熊本を県内くまなく活力と個性あふれる郷土として発展させます。

日本一づくり運動 地域の自立と活性化を促す「くまもと日本一づくり運動」を展開します。

これは、県内の各地域が、創意と工夫をこらして、全国に誇れる産品、イベント、シンボルづくりなどを通じて、その地域の個性を生かした地域づくりを進める運動ですが、長期的な県民運動として継続していきます。

大型観光拠点の開発 観光については、個性的な観光拠点づくりを進めるため、民間のエネルギーを活用しながら、野外コンサート施設、海洋レクリエーション施設など地域にふさわしい観光レクリエーション施設の整備を進めます。また、これからはイベント、サービスといったソフト面が重要であり、イベント、郷土料理、みやげ品の開発などにも力を入れます。

空港まで九十分 このような地域の努力による生き活きた地域づくりのために、人々の活動の基盤となる施設の整備を進めます。

国内外の諸都市と熊本を結ぶ陸・海・空の玄関の整備に努め、併せてこれらの機能を十分に発揮させ、その効果を県内全域に及ぼせるような交通体系づくりを進めます。

まず、熊本空港を二十四時間開港の国際空港とすることを目標として整備を進めます。また、九州新幹線

の早期着工に向けて努力する他、九州縦貫自動車道の整備を進め、熊本都市圏と各県主要都市間を百五十分で結び、日帰り交通圏とすることを目指します。

道路網については、これら陸・海・空の交通拠点との有機的な結びつきを考えた、体系づくりを進めます。また、高速道路を県内どこからでも有効に活用できるようにすることを重点に整備し、県内の地方中心城市から空港まで九十分で結ぶことを目指します。特に、熊本空港熊本港、八代港など交通拠点へのアクセス道路を整備します。



工事が進む九州縦貫自動車道（八代～入吉間）

用語解説

4. 明日を拓く人材の森

①学びの森構想
学校の前庭、棟間のオープンスペースなどを利用して、まとまりのある緑の中に、ベンチ等の休憩施設や彫塑等の添景物を配した「森」を造成し、教育環境を整備していく計画。

5. 地域で育む明日の福祉社会

①シルバー人材センター
会員である高齢労働者に、地域に密着した補助的、短期的な仕事を紹介する団体。国では、人口10万以上の都市を主たる対象として、1市1団体設置を予定している。

6. 潤いのある文化の源

①新世紀モニュメント・プロジェクト
21世紀を迎えるにあたり、次代に残す大記念事業を起こそうとする計画。

②風土記の丘
山鹿市のチブサン古墳、菊水町の江田船山古墳等重要な遺跡が所在する地域の広域保存と環境整備を行う事業。

③「くまもと緑の三倍增計画」
昭和60年度からの10年間で、県土全体の緑の量的拡大（現在の3倍へ）、質的向上を図り、県民の快適な生活環境をつくる計画。公園、道路等の公共施設だけでなく、家庭、工場等の民有地の緑化推進も積極的に行う。